

平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

明石市（兵庫県）

○計画期間：平成28年4月～平成33年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

明石市中心市街地活性化基本計画（平成28年3月15日内閣総理大臣認定）は、「「海・食・時」のまちに更なる魅力を創造し賑わいあふれるまちへ」を基本コンセプトとし、前基本計画から引き続き「便利で暮らしやすいまち」「一歩足を伸ばして楽しめるまち」を重点目標に設定し、行政と民間が協働してまちづくりに取り組んでいる。

その中でも中心市街地活性化基本計画の核事業である「明石駅前南地区第一種市街地再開発事業」については、平成28年12月1日に新しく整備された複合ビルである「パピオスあかし」の商業施設の一部及び「あかし市民広場」が先行オープンし、併せて「明石駅前広場」及び「国道2号立体横断歩行者道路」の供用が開始された。引き続き、平成29年1月27日に「あかし総合窓口」、「あかし市民図書館」及び「あかしこども広場」の一部の公共施設がオープンし、3月15日に住宅棟の超高層タワーマンションが竣工され、4月20日に「あかしこども広場」内の親子交流スペース「ハレハレ」等がオープンし、ビル内の施設が全面オープンすることになった。

平成29年度は、計画期間の2年目にあたり、「パピオスあかし」の全面オープンから1年が経過し、再開発の完成が中心市街地の賑わいに寄与している状況にある。特に「あかし市民図書館」、「あかし市民広場」及び「あかしこども広場」等の公共施設の利用者が想定以上であり、多く人が集まるようになった。

さらに、商店街等が連携し、主体となって定期的を開催している「明石まちなかバル」及び「春旬祭」等のイベント、大衆劇場「ほんまち三白館」の集客効果並びに各商店街の積極的に魅力発信により、「パピオスあかし」だけでなく、商店街への回遊性が向上している。

また、地価公示は明石駅周辺が上昇し、中心市街地内の駅から離れた地点でも横ばいで推移しており、人口も増加し続けていることから、中心市街地地区全体としての魅力が向上していることが伺える。

今後も引き続き官民が連携しながら賑わいを持続及び波及させ、中心市街地全体の活性化を図っていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（各年度1月1日現在）

（中心市街地区域）	平成27年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	7,663人	8,084人
人口増減数	207人	388人
社会増減数	141人	305人
転入者数	506人	598人

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

目標指標に関する平成 29 年度の最新値が確定した後の平成 30 年 4 月に開催し、中心市街地の現状、活性化事業の取組状況、商業活性化分科会の活動内容及び兵庫県が策定した「明石港東外港地区再開発計画」についての報告及び意見交換等を行った。

その中で、「再開発事業の完成により中心市街地全体が活性化され、賑わいが増加し、継続されている。」「期待どおりの最新値であるが、オープン直後の効果という面もある。」「これからは、「春旬祭」等定着しているイベントを日常に定着させていくことが重要である。」「現状は、まちづくりからまち育て（エリアマネジメント）の段階に移ってきているので、常に市民の求めるものに敏感に対応していかなければならない。」「中心市街地の南の拠点としての明石港の開発に期待が高まっているが、賑わいを生み出す事業だけでは、進めることが難しい。中心部とウォーターフロントを繋ぎ、どう馴染ませていくのか、難しい課題だが、期待は大きい。」との意見があった。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
便利で暮らしやすいまち	都市福利施設利用者数 (人/年)	452,001 (H26)	900,000 (H32)	1,398,325 (H29)	①	①
一歩足を伸ばして楽しめるまち	歩行者・自転車通行量 (人/日)	16,737 (H27)	20,000 (H32)	19,638 (H29)	①	①
	新規出店者数 (店/年)	12 (H27)	12 (H28~H32) (平均)	24 (H29) 23 (H28~H29)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「都市福利施設利用者数」については、「パピオスあかし」が全面オープンした平成29年4月から平成30年3月までの利用者数の合計を用いている。その中でも「あかし市民図書館」については、オープン当初から多くの人々が来館し、年間を通して利用されており、「あかしこども広場」については、平成29年4月にオープンした親子交流スペース「ハレハレ」等の利用者が多く、当初の想定を大きく上回る利用がある。「あかし総合窓口」については、利用者数は増加しているが、目標値以下の利用にとどまっており、さらに積極的に周知を行い、利用者数の増加を図る必要がある。都市福利施設の利用者数は一定の利用があり、大きく減少しにくいいため、目標達成は可能と思われる。

「歩行者・自転車通行量」については、毎年10月に実施していたが、平成29年度は雨天が続いたため、11月に調査した結果を用いている。「パピオスあかし」内の公共施設が全面オープンした影響等により大きく増加したが、目標値を僅かに下回っており、目標達成とはならなかった。

しかしながら、再開発完成前の平成28年10月及び公共施設一部オープン後の平成29年2月の調査結果に比べて着実に増加している。今後は、「パピオスあかし」に訪れる人が商店街区域まで足を伸ばしたくなるようなイベントを増やし、日常に定着させることにより、さらなる回遊性の向上を図り、通行量を増加させ、目標達成は可能と思われる。

「新規出店者数」については、平成29年10月及び11月に調査した結果を用いている。「パピオスあかし」完成による通行量の増加及び商店街の舗装のリニューアル等の商業環境の向上により、目標値を大きく上回り、目標達成の水準で推移している。今後、経済状況等不透明な外的要因により、減少する可能性があるが、通行量のさらなる増加及び商店街の魅力を向上させることにより、目標達成は可能と思われる。

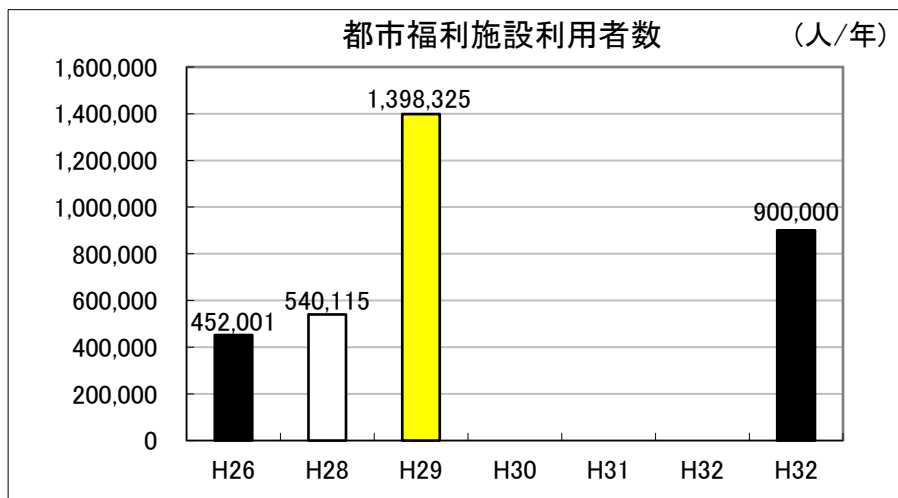
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「都市福利施設利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P64～P67 参照

●調査結果の推移



年	人/年
H26	452,001 (基準年値)
H28	540,115
H29	1,398,325
H30	
H31	
H32	
H32	900,000 (目標値)

※調査方法：各都市福利施設の年間利用者数により算出

※調査日：平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

※調査主体：明石市

※調査対象：都市福利施設利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. あかし市民図書館整備事業（明石市）

事業完了時期	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	明石駅北側の明石公園内に整備されていた「明石市立図書館」を明石駅南側の「明石駅前再開発ビル」に移転整備し、運営を行う。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 1 月 27 日に「あかし市民図書館」がオープンした。旧図書館から収蔵数及び床面積が増加し、利便性が向上したため、幅広い世代の利用があり、平成 29 年度の来館者数は 940,884 人と旧図書館の来館者と比べ約 3.6 倍となり、目標来館者数約 60 万人を大きく上回り、中心市街地の賑わいの中心となっている。

②. あかしこども広場整備事業（明石市）

事業完了時期	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」に子育て支援、次世代育成及び子どもの健康といった子どもを中心とした幅広い世代間交流及び人が学び成長する学びの場を担う拠点として、あかしこども広場を整備し、運営を行う。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 1 月 27 日に「こども健康センター」、「あかし子育て支援センター」及び「にこにこ保育ルーム」がオープンし、平成 29 年 3 月 4 日に明石たこ大使さかなクンの「ギョギョルーム」がオープンした。

	<p>平成 29 年 4 月 1 日に「明石市ファミリーサポートセンター」、平成 29 年 4 月 20 日に親子交流スペース「ハレハレ」、中高生世代交流施設「AKASHI ユーススペース」及び「多目的・キッチン・工作ルーム」がオープンにより、全面オープンとなった。</p> <p>平成 29 年度の利用者数は 327,094 人で目標利用者数約 10 万人を大きく上回った。特に「ハレハレ」の利用者数が多く、定員を超えることが多く、利用時間を短くし、入替回数を増やす等の運営方法の見直しを行い平成 30 年 2 月 12 日に利用者数が 10,000 人を突破した。</p> <p>子どもを核としたまちづくりの拠点として、幅広い世代での利用があることから、さらなる利用者の増加が見込まれ、中心市街地の活性化に貢献している。</p>
--	--

③. あかし総合窓口整備事業（明石市）

事業完了時期	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」に市民の利用頻度が高い証明書発行や保険、福祉等の行政窓口機能を整備し、運営を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>平成 29 年 1 月 27 日に「あかし総合窓口」がオープンした。平成 29 年度の利用者数（件数）は 130,347 件で目標利用者数（件数）約 15 万件を下回った。</p> <p>「明石駅前再開発ビル」内に利用頻度の高い行政窓口機能を整備することで、利便性が向上し、幅広い世代の市民が行政窓口に行く際の負担を軽減することができることから、引き続き、「あかし総合窓口」の利便性について積極的に周知し、利用者数を増やしていく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

公共施設については、平成 29 年 1 月 27 日に「明石駅前再開発ビル」に移転オープン後、すべての都市福利施設利用者数が旧施設の利用者数よりも増加している。

「あかし市民図書館」については、利用者数が移転前に比べ 3.6 倍となり、本施設の利用者数だけで、都市福利施設利用者数全体の目標値を超えている状況になっている。

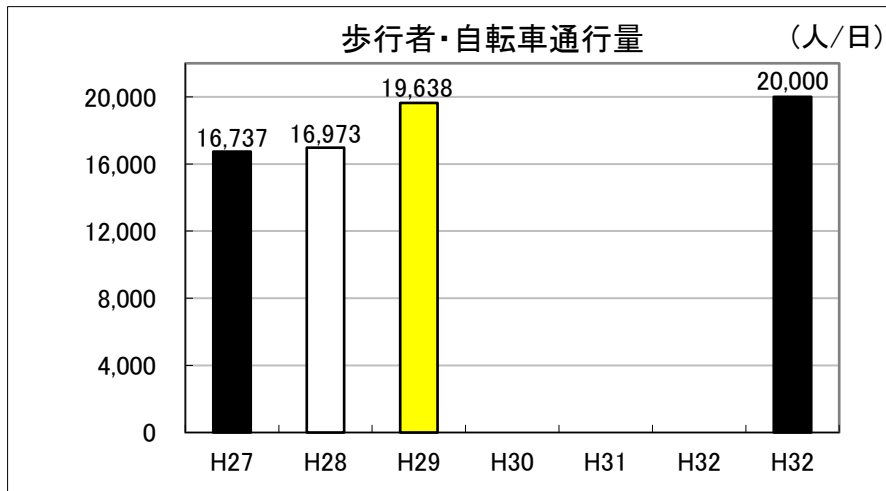
「あかしこども広場」について、全体的に利用者数が多く、目標以上の利用者数となっており、特に親子交流スペース「ハレハレ」及び「あかし子育て支援センター」の利用者が多い。

「あかし総合窓口」については、利用者数が増加しているが、目標に達しておらず、取扱業務の多さ及び立地の良さ等の利便性を積極的に周知し、利用者の増加を図ることが必要である。

今後、都市福利施設の運営内容の改善及び積極的な情報発信等を進め、さらなる都市福利施設利用者数の増加を図っていく。併せて、都市福利施設を活用したイベントや周辺の商店街等と連携したイベントを実施し、都市福利施設を中心に据え、引き続き中心市街地の活性化を推進していくことにより、目標の達成は可能であると思われる。

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P71～P75 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H27	16,737
(基準年値)	
H28	16,973
H29	19,638
H30	
H31	
H32	
H32	20,000
(目標値)	

※調査方法: 毎年 10 月ごろの休日及び平日の 10 時から 18 時まで中心市街地内に設定した 6 地点で歩行者・自転車通行量を調査する

※調査日: 平成 29 年 11 月 5 日(日曜日)及び平成 29 年 11 月 6 日(月曜日)
(平成 29 年は 10 月の調査予定日が雨天であったため順延した)

※調査主体: 明石市

※調査対象: 中心市街地内 6 地点(国道 2 号南側商店街区域内)における歩行者・自転車通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 明石駅前南地区第一種市街地再開発事業(明石駅前南地区市街地再開発組合)

事業完了時期	平成 23 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	明石駅前において耐震性と床の有効活用に課題を残す建築物を共同化し、商業や行政サービス施設、高層住宅からなる中心市街地の拠点となる複合施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 12 月 1 日に「パピオスあかし」としてオープンし、商業施設、公共施設、医療モール及び住宅棟が入居する複合ビルであることから、集客効果が高く、中心市街地の中核施設として、明石駅前と国道 2 号南地区を結び、中心市街地の活性化及び回遊性の向上の役割を担っている。 平成 30 年 4 月にビル内のすべての施設がオープンし、幅広い世代の人から利用されており、空き店舗の発生はない。明石駅コンコースの出入口の通行量については、再開発ビル整備完了前の平成 28 年度 31,261 人から平成 29 年度 39,061 人と 7,800 人増加しており、駅を出て中心市街地を訪れる人が増加している。

②. 国道2号立体横断歩行者道路整備（明石市）

事業完了時期	平成20年度～平成28年度【済】
事業概要	明石駅前南地区再開発ビルから国道2号南側までの国道2号を横断する立体横断デッキを整備する。
事業効果及び進捗状況	老朽化した横断歩道橋を撤去し、幅員を1.5mから5mに拡大し、エレベーター及び屋根を設置した立体横断デッキを新設した。雨に濡れることなく「明石駅前再開発ビル」と魚の棚商店街を直接結ぶため、国道2号南側への人の流れを増加させることができる。横断歩道橋の通行量については、再開発事業開始前の平成25年度1,021人から平成29年度4,554人と約4倍となっている。

③. 駅前高層住宅整備事業（民間事業者）

事業完了時期	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	明石駅前南地区市街地再開発ビル内に都市型高層住宅を整備する。
事業効果及び進捗状況	総戸数216戸のうち、販売対象戸数が199戸あり、即日完売となり、平成29年3月から入居開始となった。本事業により、駅前高層住宅が区域内にある大明石町1丁目の人口については、平成28年度（平成29年1月1日現在）536世帯1,097人から平成29年度（平成30年1月1日現在）715世帯1,465人と179世帯368人増加し、転入した住民による新たな回遊性の創出と通行量の増加に貢献している。

④. あかし市民広場整備事業（明石市）

事業完了時期	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に市民が集い、賑わい、憩う空間で、情報発信の拠点となるイベント広場空間を整備し、市内の観光等の情報発信やイベントを実施する。
事業効果及び進捗状況	平成28年12月9日にオープンし、平成29年度のイベント利用率は平日73%、休日99%で平均82%あり、ほぼ毎日定期的にイベントが行われ、市内外から多くの人が集まり、集客効果が高い。また、イベント開催日以外も憩いの場として活用されており、雨に濡れることなく、あかし市民広場を通過して、国道2号南側商店街を訪れることができるため、平成29年度は1日当たり約19,370人が市民広場を通行しており、回遊性の向上の中心施設となっている。

⑤. 明石まちなかバル事業（明石まちなかバル実行委員会）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街が一体となり各店連携しながら、販売促進を兼ねた事業として、飲食店を中心としたバル事業を行う。
事業効果及び進捗状況	平成 23 年の第 1 回から計 13 回開催しており、平成 29 年度は 6 月と 11 月に実施した。参加店舗数及びチケット販売額は当初から増加し、維持されており、恒例イベントとして定着し、多くの人を訪れている。今後もバル事業で集客することで商店街の PR を行い、バル当日だけでなく後日の来街を促し、中心市街地への来街目的の創出及び回遊性の向上を図る。中心市街地の主要な商店街である魚の棚商店街西口の通行量については、平成 28 年度の 3,742 人から平成 29 年度 4,818 人と 1,076 人増加しており、中心市街地南側の商店街を訪れる人が増加している。

⑥. ほんまち三白館活用事業（本町商店街振興組合・各商店街）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	大衆演劇場に改修されたほんまち三白館において、大衆演劇の公演や近隣店舗との提携事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 12 月に「ほんまち三白館」としてオープンし、月ごとに劇団が入れ替わり、1 日 2 回ほぼ毎日公演しており、来館者数は、開館以来堅調に推移している。 中心市街地の南に位置し、地域住民や文化の交流拠点となっており、今後も集客効果を周辺地域に波及できるような取り組みを進め、中心市街地への来街目的の創出及び回遊性の向上を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

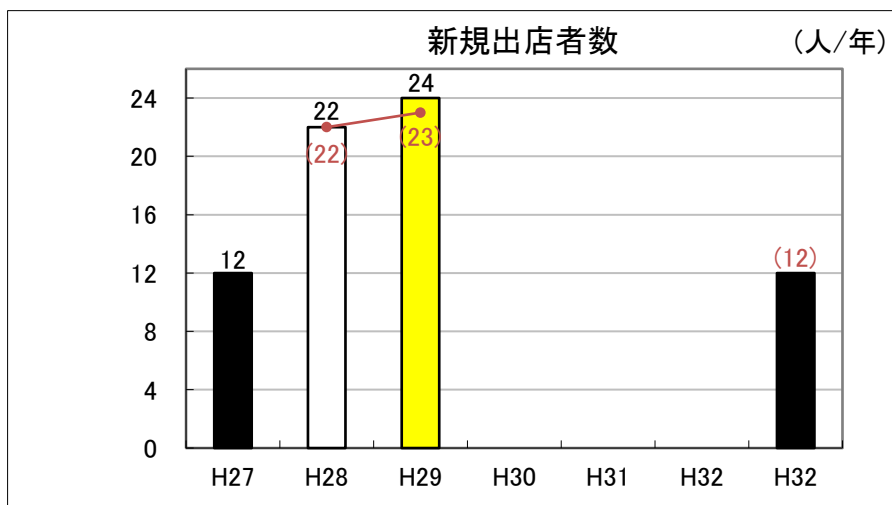
毎年 10 月に調査を行っていたが、平成 29 年度は、度重なる雨天順延のため、11 月に調査を行った。「パピオスあかし」オープンの影響で、来街者が増加し、歩行者・自転車通行量は増加したが、目標値を僅かに下回った。

明石駅から「パピオスあかし」を通り抜け、国道 2 号立体横断歩行者道路を通行し、南側の商店街まで、天候に左右されることなく通行できるようになったことから、ビルオープンで増加した来街者をビル内にとどめることなく、国道 2 号より南側商店街に誘導し、さらに通行量を増加させる必要がある。

「パピオスあかし」と国道 2 号南側の商店街と連携したイベントを展開し、来街者を国道 2 号南側の商店街へと回遊させるため、「あかし市民広場」のイベントスペースを有効に活用し、「あかし市民図書館」等との連携を積極的に行い、「明石まちなかバル」、「春旬祭」及び「明石半夏生たこまつり」等のイベントをさらに定着させ、「ほんまち三白館」の集客力を生かし、商店街の魅力を上向きさせ、商店街へ足を運ぶ目的を創出していくことにより目標の達成は可能だと思われる。

「新規出店者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P79～P81 参照

●調査結果の推移



年	店/年 (平均)
H27	12 (基準年値)
H28	22 (22)
H29	24 (23)
H30	
H31	
H32	
H32	(12) (目標値)

※調査方法：毎年10月ごろに店舗を実地視察し、前年度からの店舗の変化状況を調査する

※調査日：平成29年10月26日(木曜日)

※調査主体：明石市

※調査対象：国道2号線より南側の商店街区域の代表的な7つの通りに面した店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市道明石中央42号線ほか歩行環境整備（明石市）

事業完了時期	平成27年度～平成32年度【実施中】
事業概要	本町地区を中心とした商店街及び明石港付近における道路の美装化及び排水機能の改善を行う。
事業効果及び進捗状況	良好な歩行環境の確保と排水機能を改善した快適な歩道により、来街者の増加及び商店街の商業環境の向上を図り、新規出店数を増加させる。平成29年度から魚の棚商店街の歩道の舗装工事を実施しており、平成30年度中に完了する。

②. 景観向上施策推進事業（各商店街・明石市）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	景観資源として重要な商店街や明石駅前周辺において、景観づくりの取り組みを進めるほか、都市景観形成地区指定を目指した取り組みの支援を実施する。
事業効果及び進捗状況	各商店街における景観づくりの取り組みを推進し支援を行い、魅力的な街並みを創造し、商業環境の向上を図る。平成26年度に「ほんまち商店街まちなみ景観ガイドライン」を策定し、運用している。現在「明淡通りまちなみ景観ガイドライン」策定に向けて検討している。

③. 春旬祭事業（春旬祭実行委員会）

事業完了時期	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	明石に春を告げる魚であるイカナゴ漁の解禁に合わせ、「魚を楽しむまち」をテーマとして魚の棚商店街を中心に各商店街が連携し、明石らしいお祭りを行う。
事業効果及び進捗状況	平成 14 年の第 1 回から計 15 回開催している定着したイベントであり、平成 29 年度は平成 30 年 3 月 10 日に開催した。今後も明石の特産品である魚や地酒等を P R し、来街者が楽しめる明石ならではの祭りであり、中心市街地への来街目的の創出と商店街の魅力向上を図る。

④. 明淡線自転車駐車場整備事業（明石市）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	歩道拡幅に合わせた路上でのラック式駐輪施設の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	道路改良工事に併せ、歩道に駐輪施設を整備した。自転車での来街者を増加させ、駐輪施設を拠点とし、商店街等の利用者の増加を図る。

⑤. 明石港駐輪場改修事業（明石市）

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	高速船乗り場に隣接する駐輪場の環境改善を実施する。
事業効果及び進捗状況	明石港無料駐輪場増設工事を実施し、駐輪スペースを 290 台から 450 台に 160 台分増加させ、転落防止用フェンスの設置工事を実施した。明石港に寄港する高速船の利用者だけでなく、自転車を利用し、明石港やその周辺の商店街等を回遊する来街者が利用できる駐輪場として改修することで、中心市街地の南側へ誘客し、回遊性を向上させ、商業環境の向上を図る。

⑥. 中心市街地の空間有効活用事業（中心市街地活性化協議会商業活性化分科会）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	事業者や住民などが主体になって、中心市街地内にある未利用地や公共空間において、イベントなどの有効活用を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地内にある空き地や空き家、商店街通りの道路などの公共空間など、場所や時間を考慮して有効活用し、中心市街地への来街目的の創出と魅力向上を図る。具体的な事業の実施方法等については、中心市街地活性化協議会商業活性化分科会において、検討している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「パピオスあかし」オープンに伴う来街者の増加及び道路のリニューアル等の商業環境の向上及びまちのイメージアップにより、新規出店者数が増加したため、数値目標を大きく上回った。

今後も商店街の情報を積極的に発信し、商店街の価値を高め、来街者を増やし、新規出店の持続を図ることにより、目標値の達成は可能と思われる。